

2005年6月30日(木) 第28回研究会

発表者： 上村 明 氏(東京外国語大学非常勤講師)

発表題目： 「モンゴル古地図のデジタル化とデータベース化について  
- その現状と将来の利用方法 - 」

本研究会においては、まず第1に、21世紀COE事業の一環として今回収集されたモンゴル古地図の概要(種類・年代・地域等)について、説明がなされた。特に、デジタル化された17枚の古地図のうち、8枚については、既に地名のデータベース化もなされている。

第2に、実際にモンゴル古地図を例示しつつ、地図上に文字で記述されている要素(タイトル・日付・コメント・方向・境界・寺院等の建造物・山丘や河川等)について、説明がなされた。また、それらをデジタル化しデータベース化することによって、WEB上で閲覧・検索することが可能になったことが示された。

第3に、このようなモンゴル古地図のデジタル化とデータベース化によるWEB上での閲覧・検索は、他の地図や衛星画像との連携・比較を容易にするため、古地図の地理情報に関する記述方法の特徴を現在の地図と比較することによって、当時のモンゴル人の景観認識を分析し得ることが説明された。また、時間の経過による環境の変化(温暖化による湖沼の消失や森林の消失・地名の変化や都市の出現)等を検証し得ることについても説明された。

第4に、地名のデータベース化によって、地域(ゴビ・ハンガイ)ごとの水源・森林等の種類や分布の違いを検証することが可能になり、色彩や形状を示す形容詞が含まれる地名は、それらの表現語句の入力によってWEB上で検索し得ることが説明された。

以上の報告後、他地域における古地図の記述方法や、保存・公開の現状等に基づく質疑・応答が行われ、活発な議論が交わされた。また、本研究会において、時間及び場所の都合上、説明に及ばなかった部分は、あらためて研究会を設定することとなった。